



新任教員研修を実施しました！

令和3年9月4日(土)、新任教員研修を実施しました。本年度は高遠自然の家1泊2日の研修を1日研修に変更し、松本青い鳥幼稚園の園舎をお借りして実施する計画で進めてきました。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大により、全県が県独自の感染警戒レベル5となり、リアルでの開催を断念しWEBでの開催としました。当日は県協会理事長大森けい子先生をはじめ、中信地区の研修役員の先生方に運営いただき、新任の先生方にとって日頃の保育に生かせる様々な学びを得ることのできる一日となりました。下記に研修の内容と受講された先生方の学びを紹介します。

<開会行事での大森けい子理事長あいさつ>

皆さんが保育士として初めて一步を踏み出した時の研修がハイブリッドでの研修になり、今回は皆さんにお会いできるのを楽しみにしていました。残念ながらWEBとなってしまいました。4月から5ヵ月経たち、保育者として慣れましたか。コロナ禍でなかなか思うような保育ができないのではないのでしょうか。若い先生に保育で何が一番困っているかと尋ねますと、「保護者、お母さんへの対応が一番困ります」との声が聞かれました。子どもの姿をよく見ている、お母さんにお話ができることが大切かと思えます。今日の研修では日々の保育についてお話する機会もあります。楽しいおしゃべりの中で、ヒントを得ていただければと思います。

<研修1> 野外での安全確保

講師：松本光明幼稚園長 西片紀美子 先生

—講義要旨—

- ・ 野外での活動は、園の中では得られない貴重な出会いがたくさんある。教育要領の10の姿にも「自然とのかかわり 生命尊重」という項目がある通り。
- ・ 教師がまず野外での活動に対するの願いを持つ⇒保護者の理解を得る⇒準備を周到に行う
⇒下見をする(全員の保育者による事前の下見 + 一部の担当者だけでもいいので直前の下見)
⇒実施日…子どもたちが安心して活動できるように支援⇒評価(活動の振り返り)
- ・ 園内にも子どもが挑戦できる場面がいっぱい。挑戦するため、教師の願いのもと園内の環境を整え、支援していく。
- ・ 野外の活動は危険がつきもの。大きな事故につながらないような事前の環境整備や配慮はしていくが、全く危険を取り除いてしまうのではなく、又危険だからその活動をやめてしまうのではなく、子どもたち自身が危険察知能力を身に付けていけるように配慮していく。

—参加者の学び—

- ・ 野外に出る時はまず下見がとても大切だなと改めて思いました。子どもたちにとって良い環境を整えるためには、「もしかしたらこうなるかもしれない」ということを考えていくことが必要だと感じました。また、危険なことも子どもたちが自ら学べるように、リスクとハザードといった面を考えながら環境を整えることも大切だと学びました。
- ・ 野外活動で、下見をした事でここまでなら大丈夫という所までは子どもが先頭で行く場面があったという話を聞きました。先生について行くだけでなく子どもが自ら進んでいくという機会になり、さらに自分の体で感じたり発見したりすることがあると思います。下見の大切さを学びました。また、子どもや保護者との信頼関係を築いていくためにも、日々の保育を大切にしたいです。危険だからやらせないのではなく、どうしたら危険がなくせるのか、子どもが豊かな体験ができるように考えていきたいです。

＜研修2＞日頃の保育について語り合おう

講師：松本青い鳥幼稚園副園長 中島 公子 先生・中信地区研修委員の先生方

－講義要旨－

- ・ 参加者が7つのグループに分かれ、意見を出し合う。中信エリア研修委員と中信エリア長、協会研修委員長がひとりずつグループに入って進行役を行う。
- ・ 話し合いは自己紹介のあと4つのテーマで話を出し合う。テーマ①どんな時に楽しい・嬉しいと感じますか？②困ったこと、失敗したことはありますか？③幼稚園の先生ってすごいなと思ったこと④幼稚園の先生って大変だなと思ったこと
- ・ どの先生も大勢の子どもに同時に目を配りながら保育することの難しさを感じている様だった。特にその中で配慮の必要な子どもがいるときには、その対応に難しさを感じている。又、保護者対応の難しさも多くの先生が感じている。しかし、その中で先輩の先生に相談したり、先輩の先生方のやり方を真似てみたりと前向きに新任の5か月間を過ごしてきたことがわかり、周りの方々に保育者として育ててもらっている様子がよくわかる話し合いとなった。

－参加者の学び－

- ・ 自分と同じ新任の先生方の話を聞いていくなかで、みんなも頑張っているのだなという心がほっとするような気持ちになりました。それと同時に、色々な考えや思い、体験をしていて凄いなということも感じました。なので、自分も考えて行動したり、もっとしっかりと日々を過ごしたりしていかなければと感じることができました。
- ・ 話し合いをする中で、私も似たような嬉しいことがあったなと感じたり、同じ悩みがあるなと感じたりすることが多くあった。同じ新任という立場同士で悩みや喜びを共有する機会はあまりないが、お互いに刺激し合うことのできる良い時間だったと感じた。保育は一人でするものではなく、チームワークが大切になってくるため、今回のように数人のグループで話し合う機会を作っていけたら良いと感じた。

＜研修3＞保護者対応について学ぼう

講師：聖ヨゼフ幼稚園長 倉科 正豊 先生

－講義要旨－

- ・ まず、心構えとして相手に良い印象を与えるための笑顔・表情・目・言葉使い(笑顔は時と場合による)
- ・ 保護者は自分の子どもが一番！それをまず理解しておく。そのうえで簡単でいいから一人一人のエピソードを心に刻んで保護者に伝えていく。保護者への報告が幼稚園・認定こども園と保護者の信頼関係につながっていく。
- ・ 常に相手の立場に立って物を考えられるようにしていこう。世の中にはいろんな価値観の人がいる。
- ・ 自分が見ていないときに子どもが怪我をするときもある。保育者同士で報告・連絡・相談が大事。常に先輩の先生と相談していく。

－参加者の学び－

- ・ 目を見て話すことの大切さを改めて感じました。また目は口ほどに物を言うということわざのとおり、保護者の方と話をする時に時、場合によって表情を変えることの大切さも知りました。今回の講演で学んだことを日常の保育にいかしていきたいです。ありがとうございました。
- ・ 4月当初から今でも保護者対応は緊張します。話す内容、電話での会話、伝え方、毎回もっと上手になりたいなと思いながら話をしていました。
今回のお話を聞いて、保護者との信頼関係を築いていく為に子どもの良いエピソードを伝えていくことは大切で、その子の話をすぐに出来るよう一人一人を良く見て覚えておこうと思いました。また、伝え方にも気をつけ、常に相手の立場にたって考えることを心に留めておきたいと思います。

倉科先生のお話で、3つのことわざを紹介いただきました。「目は口ほどにものを言う」「親しき中にも礼儀あり」「壁に耳あり障子に目あり」「リスクマネジメント、園児をはじめ保護者の方との関係づくりに大切なことと感じました。(支援員)